

- 令和3年度学校評価(中学校) -

学校評価(中学校)

教育目標 (誠実な人間、良き社会人の育成)

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価	
		評価点	学校としての反省・改善策	評価点	意見等
1	教育目標	A	サレジオ生が教育目標に向かって成長するよう、学校生活が構成されている。内進生も外進生も皆、中学入学前に創立者ヨハネ・ボスコの小伝を読み、「誠実・勤勉な社会人のモデル」を具体的にイメージを共有している。また校長先生の訓話を通じ、年間を通じて目標および原点の確認を行っている。	A	・サレジオの教育目標の周知徹底は、生徒だけでなく保護者に対しても強力に進めるべきである。 ・カトリック学校の教育の特長を子供たちの成長過程の中で伝えることは、何十年経っても心に残り続けるので是非生かしていただきたい。
2	宗教指導	A	聖書の教えを基礎として、カトリックミッション校の歴史と伝統を堅持し、生徒の発達段階や時代の変化に適切に対応する宗教行事・宗教教育を行った。コロナ禍2年目は動画なども駆使し、密を避けながら、聖母祭や創立記念ミサ、クリスマス会などを対面で実施することができた。	A	・コロナ禍、生徒数増で実施は困難かもしれないが、以前創立記念日ミサで行われた合唱は感動的だったので、何か幼〜高まで一緒にできるものがあると良いと思う。
3	教育課程	A	国語・数学・英語の3教科は標準より多く授業時数を設定し、小論文やCLILなど特色ある授業を行っている。今年度からプログラミング授業も本格開始し、児童生徒はめきめきと力を伸ばしている。MYPカリキュラムや評価の仕方を全保護者に書面で配付し、全学年のユニットや評価を公開した。コーディネーターによる保護者説明会も定期的に実施し、教育課程に関する理解が年々深まってきている。	A	・定期考査の方式が変わり年2回になったが、回数が減った分範囲が広がった為、中学生は5教科しかないがテスト勉強が大変になったように感じる。 ・土曜日の登校日をまとめて1回とかにできないか。
4	評価・認定	A	教員が恣意的に評価するのではなく、IBの評価規準に基づく評価を心掛けている。明確な評価規準と課題を先行提示することで、児童生徒はポイントを整理して学習し、その結果を具体的に確認できるようになった。実力テストは、もはや評価の中心ではなく一部であり、日々の小テスト、単元テスト、総括課題、実力テスト、学びに向かう態度で、多面的・総合的に評価を行っている。	A	・実力テストだけでなく、常に目標を持ち達成に向けて1年間を通じて努力できる環境だった。 ・IBを抜きにしても、小テストの実施は勉強に向かう姿勢づくりに役立つと思う。
5	教科指導	A	全教科で、MYPユニットプランナーに基づく年間50時間以上の探究授業を実施できた。探究の問いや単元のゴールなどの設計図によって探究授業が構造化され、inputとoutputのバランスの取れた、活発で深い学びが実現している。一人一台のiPadも、学習状況の見える化と学びの蓄積を助けている。生徒の学力差はなお課題であり、個々の学習を個別最適化する方法を模索せねばならない。	A	・コロナのため、グループでの活発な意見交換が対面で行える機会が少なかった。 ・MYP学習指導要領の改訂で仕方がないかもしれないが、体育の保健の授業が増えたので体を動かす時間が減って残念。
6	授業研修	A	バディ制(教員が二人一組となり、見せ合い授業を実施)を導入し、互いに評価・学び合いを行った。効果的な総括課題の設定や授業の展開の仕方を探究するため、年2回(7月:数学、1月:理科)の研究授業を行った。サレジオの教職員として、カトリックの人間観を神父様よりご講義頂き、生徒をはじめ他者に対する肯定的で温かな眼差しを学ぶことができた。	A	・コロナ禍で外部での研修機会が減っているのではないかとと思うが、内部での研修を強化するなど対策願いたい。
7	学級経営	A	担任は職員室ではなく、できる限り自分の教室で過ごすアシスタントを実践することで、クラスの変化やニーズを肌で感じ、丁寧に対応した。担任は、生徒の自主性に基づきよりよい学級経営ができるよう、多くの話し合いをもち、具体的実践までサポートした。新任教員にはW担任でベテランが付き、生徒対応のいろはを言葉と行動で示した。保護者には可能な限り来校を願い、授業見学や各種行事で生徒の輝きをご覧頂き、保護者会や面談時に学校での頑張りを伝えてきた。	A	自己評価に同意
8	生活指導	B	担任・主任・養護・教頭・校長で連携、情報共有した。落ち着いた学校生活と学級経営により、全般的に問題の発生数を少なくできた一年だった。問題発生時にはすぐに保護者に来校頂いて情報共有、対応方法を協議し、問題が大きくなるよう努めた。凡そ事態は好転したものの、指導が腑に落ちず、最終的に退学となるケースが発生したことは極めて遺憾であった。	B	・先生方が生徒と共に過ごす時間が多く安心できる。コロナ禍で保護者の来校機会が減り残念だったが、面談で話を聞いて安心できた。 ・起きてしまった問題は仕方ないが、解決に向けての学校サイドの対応は早かったと思う。
9	進路指導	A	カレッジステージのコース選択のために、アドミッションポリシーや学びの特長を整理し、ミドル全体で共有した。特に8年教員は、生徒が「自分らしい学び方」を見つけ、志望理由書を何度も書いて主体的にコース選択に臨めるよう指導した。カレッジステージのコース長による動画説明も分かりやすく、小学校も含め広く配信することができた。コース選択最終4者面談では、多くの生徒が自らのビジョンを力強く語ることで校長先生よりご報告を頂いている。	A	・面談も終わり9年生のクラス分けもほぼ分かった段階で、これからどのような勉強をしていけばいいのかアドバイスをしてほしい。 ・コース選択では親子で話し合い子供の考えを聞く良い機会になった。先生方のサポートにより方向性を決めることができた。
10	安全管理	A	コロナ禍にあっても、今年は不審者対応も含め学園全体の防災訓練を実施できてよかった。健康管理に関しては、保健室がPMCそれぞれに設置されたことで、コロナ対策をはじめ、多くのことにより細やかに対応できた。学園全体の防災マニュアルも見直しを進め、小と中高で分かれていたものを、PMC単位へと改訂できつつある。	A	自己評価に同意
11	校務分掌	A	各部長や主任の指示のもと、全教員が責任感をもって職務にあたっている。分掌間のヨコの連携も円滑である。近年右肩がりの広報募集活動では、例年の国語・数学科に加え、英語科も大活躍した。ありがたい反面、過重な負担感も否めない。反省をもとに、よりよい校務分掌、施策につなげたい。	A	自己評価に同意

- 令和3年度学校評価(中学校) -

12	行事運営	校外外で行われる学校行事は教育目標に照らして十分にその役割を果たしている。	A	新入生研修やキャンパスツアー、研修旅行などの宿泊行事、体育や芸術などの文化的な催しなど、どれもサレジオ精神に基づいて実施されるはずだったが、今年も昨年同様コロナにより多くが中止となった。それでも、体育祭やミドルクリスマス会などはコロナ対策を徹底の上実施することができ、多くの生徒の笑顔に包まれたことは大きな喜びであった。	A	自己評価に同意
13	管理運営	学校組織の管理運営系統が明確で、役割分担や協力体制が整っている。	A	報告・連絡・相談・指示を密に行う目標達成型の管理運営を目指した。各分掌責任者は今年度の職務目標をよく理解し、それぞれの現場をよりよく指揮した。課題は、退勤時間が遅くなりがちなことである。引き続き、19時半に全員が退勤できるよう、協力体制を整えていきたい。	A	自己評価に同意
14	施設・設備	本校の施設、設備は生徒が生活する上で快適な環境として管理・整備されている。	B	Pの新校舎移転により、4号館2階に職員室を移転、2号館1階にミドル保健室を整備することができた。それぞれリフォームされ、生徒の過ごしやすさや教員の働きやすさに繋がっている。外壁の雨漏り修繕は進んだが、一部教室および廊下の雨漏りや、エアコン起動時の異臭は応急処置にとどまり、大規模修繕はできていない。壁に大きな亀裂が見られるところもあり、逐一点検をお願いしている。	B	・ミドルの下駄箱がサビでいてかなり古いので何とかしてほしい。
15	課外活動	放課後の部活動や生徒会活動を通じ、教師が常に生徒と「共にいる」よう努めている。	A	放課後にはサレジオメソッドを実施し、e-learningやメンター、Basic / weblio English、各部活動など、生徒それぞれの必要に応じた学習や活動に向かえるよう工夫を凝らしている。生徒の嘆願から始まった歴史研究会も好評である。一方で、毎年増えていく活動内容をどう整理し、学園の方針の下、選択と集中を図るかが課題である。	A	・放課後のメソッドで中学生対象の英検講座を開講してほしい。 ・放課後のサレジオメソッドはとてもいい事だとは思っているが、いまいちわかりづらい気がする。メソッドは子供が自主的に活動し学ぶ事だと思うが娘もどうしたらいいのか？何をしたらいいのか？いつの間にか部活も辞めてしまい、保護者としては具体的に何を学習させていいのかかわからない。面談、コース選択も終わったがアドバイスを頂けたらと思う。
全般、総合評価			A	2年前、ドミニカカレッジの先生に「日本はまだchalk&talk」と苦笑されたのが遠い昔に感じられる程、コロナ禍とICT本格活用で学校は激変した。密を避ける生活様式、マスク着用、オンライン授業にも、ある意味慣れてしまった2021年度。それでも、生徒に近づき、生徒と共に歩むサレジオの教育は日々変わらず生きていた。これからも、ドン・ボスコのまなざしで子どもを見つめねばならない。有り難いことに、サレジオに憧れ、入学してくる新入生は年々増加している。新しい時代を、変わらぬドン・ボスコの心で歩んでいきたい。	A	・学園の評価が高まっていることは、関係者としても嬉しいことだが、これまで築いてきた良き伝統もしっかり継承してもらいたい。

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

今後に向けての考え方(学校関係者評価を受けて)

学園の変化や挑戦を肯定的に受け止めていただいたことを嬉しく思います。時代の要請に応え、新たな挑戦を続けたのが、まさに創立者ドン・ボスコでした。しかし、新たな挑戦をする中には、針路を見失う危険性もあります。「よき伝統」を道しるべに、シスター方から受け継いだサレジオの教育法に立ち返るよう心がけます。その根本は言うまでもなく予防教育法です。児童生徒とのかかわりが理性的で、確かなキリスト教的価値観を共有し、独りよがりの愛情になっていないか、日々振り返ります。予防教育法は単なる理論ではなく、いつも、どんな時も、共に歩むという実践そのものです。次代を担う若手と中堅、これまでのサレジオをよく知るベテラン教職員とが互いに尊敬、切磋琢磨し合いながら、互いに力を合わせ、よりよいサレジオの未来を築いて参りたいと思います。その結果、子どもも保護者の方々も知的・精神的成長を実感し、「やはりサレジオを選んで正解だった」と思っていたらいいように、今後も全力を尽くして参ります。